



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを「職員の仲間」という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第9号

2026年8月19日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

準備万端 !!そして……

8月19日、いよいよ2026年度の夏休みわくわく算数教室が始まりました。前日には、30名近くものSPさんが準備のために片葩小に来てくれました。今年から本格的に町全体の行事となり、過去最多の児童数となりました。多くのSPさんが来てくださり本当に助かりました。氏名札の作成、会場設営などをメインとして準備にあたってもらいました。こうして準備万端で、いよいよ始まるわくわく算数教室初日を迎えることができました。



初日から教室がいっぱいになるほどの子どもたちがやってきました。来賓の方々が「大盛況ですね。」「これだけの子どもたちが参加してくるのですね。」「SPさんもこんなにたくさん来てくれるのですね。」と驚かれていました。午前の部は、片葩小以外の子どもたちの参加がほとんどでした。初めて片葩小に来た子どもたちが多かったからか最初は不安げな顔がちらほら見受けられました。しかし、自分の座席があったこと（自分の居場所）、そして何よりSPさんが優しく関わってくれたことで、どんどん会場の緊張がほぐれていきました。教室が終わり、下校の時にはみんなとても良い顔で「バイバイ!」と手を振って帰っていきました。子どもたちは正直です。「楽しかった」「来てよかった」と思わなければ、あんなに良い顔で帰ることはできません。あの子どもたちの姿を引き出したのは、紛れもなくSPさんです。今年も素晴らしいSPさんが集まってくれました。



最高の笑顔!!

片葩小のSPコーディネーターである中村先生は、算数教室の終了時刻前になると必ず「キリのついた子から、感想を書き始めてね。」と声をかけています。普段の授業では、チャイムが鳴ったらその授業は半ば強制的に終わります。でもわく算は、それぞれのペースで学習を終えます。SPさんはその意図を分かっているのか、それぞれの子どもの様子を見て「よし、Aさんはそろそろ終われる?」「お!ここまで頑張るのか!やってみよう!」と、個(子)に応じた声かけをしています。目の前の子どもを見て、それぞれに合った声をかける。どのSPさんも当たり前に行っていることが現場ではとても大切なことです。この経験は必ずみなさんの今後につながるはず!!たくさんチャレンジしてくださいね!



SPさんも子どもも“真剣”です。
SPさんの熱意が伝わります。



こんなに前のめりになって、
“算数の勉強”をしています。